

「つどいの広場」への参加による 学生の教育的効果

青山 雅哉・小川 純子・中田 章子

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

Educational Effects of Student Participation in “*Tudo-no-Hiroba*”

Masaya Aoyama・Sumiko Ogawa・Noriko Nakata

Naragakuen University Narabunka Women's College

奈良市地域子育て支援拠点事業としての「つどいの広場」は、主に0歳～就園までの親子が気軽に集える場として地域に広く周知されるようになり、親と子どもの成長を支えることと共に、本学が保育者養成校であるという性質上、子育て支援と学生教育の接続を図ることを目的として実施している。とりわけ、将来保育者を目指す学生が子どもたちと触れ合い、実際に学ぶ場としての広場の役割は大きく、早期に広場体験を行うことで学生の実践的学びとなっていることが明らかである。本研究では、法人の平成28年度事業計画による本学の教学改革計画の中での「⑦実践力向上のために、子育て支援活動と教育との接続を充実させる」に基づいて実施し、授業での参加に注目して参加の在り方の検討とともに、学生の意識の変容を探り、教育的効果を検証し報告するものである。

キーワード：幼児教育、子育て支援、保育活動

1. はじめに

本学においては、従来から学生の「つどいの広場」への参加を、実際に子どもに触れて発達や個々の特性を理解すること、保育者として子どもの興味を引きつける技能等を身に付けていくこと、また子育ての支援者として保護者を理解すること等、保育者としての資質の習得において意義あることと考え、授業における計画的な実施を推進してきた。そのために、上記の教学改革計画における「⑦実践力向上のために、子育て支援活動と教育との接続を充実させる」その実施計画として（a）授業などで、1年次前期から「つどいの広場」（ちびっこ広場を含む）の見学などを行う。（b）各科目で子育て支援活動と関わる内容の検討と実施の促進を図る。時間外学習に組み入れる等の策を授業で検討していく。（c）「子ども学ゼミ」開講8講座の内、半数の4講座以上から広場への参加を行い、広場参加を増加させる。（d）広場への早期参加及び継続参加における学習成果をアンケートにより検証する。これら（a）～（d）

青山 雅哉・小川 純子・中田 章子 〒631-8523 奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

の4項目を挙げ、これを達成への具体的計画として実施している。

授業における参加は、実習未経験の1・2回生が4月に「こどもの保健」でつどいの広場を見学したものの、多くの授業では、内容や進行状況を考慮され後期に集中した。実習未経験の学生は、9月～10月に「保育実習指導」「幼稚園実習」でペープサート等の手作り教材を用いたり、絵本の読み聞かせ等を行ったりし、1月～2月には「音楽の基礎」で歌や手遊び等の演習を行った。すでに実習を経験した学生は、10月に「乳児保育」の授業で制作した手作りおもちゃを持参し、子どもが使って遊ぶ様子を観察した。また、つどいの広場のイベントとして開催している「ちびっこ広場」においては、「音楽表現」「社会的養護」「オペレッタ」「年中行事」の各ゼミが成果発表を行った。なお、これらは(a)(b)(c)に関わるものとして、年度当初に計画に揚げ、8月に再度参加確認した教科である。また、(d)については2月に学生の広場参加による意識の変容をアンケート調査により明らかにした。

2. 授業における広場参加の目的と実際

実習未経験者である1回生のうち、15名は「幼稚園実習」、78名は「音楽の基礎」で広場に参加した。「子どもは可愛い」という感覚は持っているが、実習時に保育者として子どもと関わることや、授業で学んだ技能を実践することに対して不安を感じている学生が大半である。1年次実習前に広場に参加することで保育現場がイメージでき、学生の実習に対する不安軽減と共に、自己の保育技術を披露することで実践力や保育者となるべく意識を高めることができると考えた。

2.1 「幼稚園実習」

9月下旬～11月下旬の授業時間外での参加となった。これから臨む実習では、幼児と生活を共にしながら、保育者の役割や保育の在り方を学ぶことになるが、「つどいの広場」で3歳児以下の乳幼児の成長を知ることにより、その後の幼児期の発達段階を一層理解できると考えた。また、どの年齢においても、保育者の子どもの特性に応じた援助や保育の創造は不易なものでもある。保育実践力を習得していく学生にとっては、広場が、保育者となるべく“気付き”“行動”の場であると捉えた。広場では、3名ずつがグループとなり、毎回、手遊びや絵本の読み聞かせ等の内容を考えて実践したり、子どもと触れ合って遊んだりした。また、終了後は広場スタッフや担当教員と共に振り返りを行ない、次の授業で、活動した内容を披露し感想や課題を発表するようにした。

以下は、実践後の学生(S)及び担当教員(T)の感想と授業での学生の報告内容である。(一部抜粋)

最初は何の学生も広場利用の親子を前に緊張した様子が見られたが、子どもと一緒に遊ぶ経験を通して子どもの反応を見ながら保育を進めようとする柔軟さが見られるようになっていった。また、振り返りとして体験後に授業で活動内容を再現し、思いや気付きを伝えることが次への参考となり、保育展開や教材活用の工夫に繋がった。広場では、学生たちによる体験の伝達が徐々に自身の実践力に反映されていく様子が観察できた。実習未経験の学生にとっては、特に保育展開上予想外の反応があることを実

感じ、自身の保育の在り方を考えるきっかけになった。

	保育の振り返り	授業での報告
9/26	<p>S：自己紹介で緊張はしたが、笑顔でやり遂げることができた。お母さんが一緒に手遊びしてくれたり子ども達が楽しそうに反応してくれたりしたので、自分たちも楽しくなってきた。</p> <p>T：笑顔を意識しているものの、3人で顔を見合わせることが多く、戸惑いが感じられた。分担して進めることに意識が向き、絵本の読み聞かせの途中で交代したり速度が速くなったりして、進め方に課題があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が小さいので、保護者も巻き込んだ手遊びを考える。 ・絵本は、一人で読む方が子どもは集中しやすいようだ。ゆっくり読み進めることが大事。途中で子どもは予想外の反応をするので、対応に戸惑い活動が途切れることもあった。 ・演習前に長く遊ぶ方が子どもの様子も把握でき、緊張感も取れる。
10/17	<p>S：4・5歳児がいたことで、受け答えができて進行しやすかった。最初恥ずかしそうにしていた2歳児が、絵本を見て知っていることを繰り返し発言してくれたことが嬉しかった。</p> <p>T：絵本の読み聞かせでは、子どもたちに話しかけながらゆっくり読み進め、1・2歳児を意識して進めている様子が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型絵本は小さな子には注目しやすい。内容に繰り返しがあることや登場人物の少ないことで興味をもって見ていた。 ・子どもたちの様子を見ながら保育を進めることは難しいが、慌てないことが大事。
11/7	<p>S：乳児もいたので母親ともやり取りをしながら進めるようにした。手遊びは、ゆっくり、動作を大きくして、子どもにわかりやすくすることが必要だと感じた。</p> <p>T：演習の前後に参加親子と触れ合う時間を設けたことで親しみがわき、ゆったりと関わっていた。手遊びや絵本を読む際にも、一人一人の反応をしっかり受けとめながら進めることができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演習前に子どもと遊んだり、母親と話したりすることで、緊張がほぐれた。名前を呼び掛けながら一緒に遊ぶことで、子どもとの距離も近くなり、演習を進めるときも和やかな雰囲気になった。
11/14	<p>S：最初に「バナナ体操」をしたことで、場の雰囲気が盛り上がり、その後の自己紹介や絵本の読み聞かせも緊張せずに行うことができた。子ども達が寄ってきて一生懸命真似て踊ろうとしてくれたことが嬉しかった。</p> <p>T：一緒に遊ぶ中で、年齢の低い子どもたちにも進んで声掛けができていた。楽しく触れ合えるように体操を取り入れたことで、子ども達の気持ちの高まりを実感できたようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに何かをして見せるというよりも、一緒に楽しむというつもりで保育することが大事。最初に体操を取り入れたのは効果的だった。 ・体操する際は、子どもたちにわかりやすいように声をかけながら動き方を知らせて進める。バナナのぬいぐるみが広場にあることが分かったので、事前に確かめて活用すればよかった。
11/21	<p>S：広場にあるお手玉で先生が遊ぶ様子を見て、子どもの心の掴み方を学んだ。子ども達は準備したポンポンやペンダントを喜び、身に付けたり手に持ったりして、繰り返ししても楽しそうだった。実際に子どもたちと接することで、言葉遣いや接し方の課題が見えてきた。</p> <p>T：どのようにすれば子どもたちが楽しく活動に参加できるかを予想しながら事前準備したことで、子どもと一緒に楽しんで保育展開する余裕が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子どもは、何か手に持ったり身に付けたりすると、なり切って表現する。子どもが楽しく活動するためには、教材研究が必要。 ・一人一人違う反応の受け止め方や言葉の掛け方などは、母親やスタッフの先生の関わりを見たり、その都度聞いたりすることで気付くことが多い。

2.2 「音楽の基礎」

「つどいの広場」「ちびっこ広場」における音楽表現の実践的活動の場として、入学後1年間の授業となる「音楽の基礎」を終了後、1月～2月にかけて1回生CD組78名が各グループに分かれて参加した。「ちびっこ広場」への参加はその場を希望する3グループ15名が参加し、15グループ63名が「つどいの広場」への参加となった。今回の活動は3年目となるものであり、これまでに実施したアンケートを基に調査や研究¹⁾を行い、この活動による教育成果が明らかであることから今年度も継続して行なうこととなった。また、活動内容を振り返り、その課題への改善点として今回は以下の4点を踏まえ、その計画と予行練習を重ね十分に準備して臨んでいくよう指導を行った。

- ・ 3歳児以下の乳幼児であることから、その発達段階への知識の習得と、その年齢層に合わせた活動内容として実践計画すること
- ・ 保育現場をイメージしながら練習を重ねておくこと
- ・ 言葉や歌をはっきりとわかるように表現すること
- ・ 活動内容には必ずキーボード伴奏による音楽表現を活用すること。その際、キーボード奏者も含め各自が子どもの様子を確認して、そのペースに合わせた音楽表現となること

以下は参加18グループの内、3グループの実践例である。

実践例1（1D 6名）つどいの広場

<p>発表内容 キーワード ・歌 ・手遊び ・絵本</p>	<p>使用した絵本・曲 キツネの手遊び しあわせなら手をたたこう（歌） ぼんたのじどうはんばいき（絵本）</p>
<p>ねらい又は目標 リズムに合わせて歌を歌い、絵本をみんなで楽しむ。</p>	<p>対象年齢 3歳</p>
<p>実施内容 発表者の周りに集まるように言葉がけをする。 続いて自己紹介をする。 キツネの手遊びをする。 「ぼんたのじどうはんばいき」の絵本を読む。劇のように登場人物になりきり、セリフとして読む。 「幸せなら手をたたこう」をピアノに合わせて3番まで歌う。</p>	<p>援助と留意点 分かりやすくはっきりとした声で行う。 2人が前で、4人が子ども達の横です。最初はゆっくりと手本を見せる。次に「一緒にやっ てね。」と声をかけて大きな声でしっかりと歌い ながら、手遊びをする。 絵本を読む前に見やすい場所に移動してもらう。 途中で何度か登場人物を確認して、「どうだった かな？」などの声かけをする。 最後にポンタも幸せそうだから、幸せなら手を たたこう、と繋げる。手遊びと同じ体形で行う。</p>

このグループは一週間前のリハーサルでは、ただ絵本を読むという準備しかできていず、棒読みのセリフも多く、子ども達が飽きて集中しないのではないか？というアドバイスを行った。本番では、登場人物の面や「じどうはんばいき」を画用紙で作成して使用し、また、セリフもきちんと割り振りをして、声で子ども達が混乱しないように練習を重ね発表をした。

実践例2 (1D 5名) つどいの広場

発表内容 キーワード ・歌 ・手遊び ・エプロンシアター	使用した絵本・曲 ももたろうの手遊び ももたろう (絵本)
ねらい又は目標 子どもの様子を伺いながら、指導者も一緒に楽しむ。	対象年齢 3歳
実施内容 自己紹介 手遊び ももたろう エプロンシアター ももたろう	援助と留意点 子どもの関心がこちらに向くように声かけを行い、エプロンシアターが見やすい場所に誘導する。 子どもが楽しめるように自分たち自身も楽しみ、年齢の小さな子どもには、すぐ側について教えながら行う。 子ども達の興味がふくらむように、表情や話し方を工夫し対話をする。人形に動きを加えたり、人形に触れたりする機会を作る。 くり返し of 歌を入れ、小さな子どもでも歌えて楽しめるようにする。

このグループは、フェルトでとても可愛い登場人物や動物を作成しエプロンシアターを行った。色もカラフルで明るく、登場人物が一目で分かり、しっかりとした準備ができていた。子どもたちも興味をひかれ、前へ前へと出てきていた。歌声も明るくハッキリしていて、感情もしっかりと入っており、後日、もう一度ちびっこ広場で、エプロンシアターを行った。

実践例3 (1C 5名) ちびっこ広場

発表内容 キーワード ・手遊び ・ペープサート ・絵本	使用した絵本・曲 はらべこあおむし (絵本・歌) はじまるよ、キャベツの中から、の手遊び
ねらい又は目標 音楽と一緒に絵本を楽しんでもらう	対象年齢 3歳

<p>実施内容 自己紹介 手遊び はじまるよ はらぺこあおむしの大型絵本を、カラオケCDに合わせて読み、歌う。</p> <p>絵本に出てきた食べ物を、ペープサートで出す。</p> <p>手遊び キャベツの中から 最後に</p>	<p>援助と留意点 明るい声でハキハキと。 堂々とゆっくり歌う。大きく動作を行う。 絵が見えるようにめくる人は後ろにいる。歌声が良く聞こえるようにハッキリと歌う。歌詞を覚えておき、子ども達の顔を見て歌う。 「あおむしは何を食べたかな？」などの問いかけをする。ペープサートを出して、食べ物の名前を当ててもらおう。 ゆっくり歌う。大きく動作を行う。好き嫌いを無くしてたくさん食べて大きくなってね、と伝える。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

このグループは、はらぺこあおむしの絵本の読み聞かせを歌を使って子どもたちに伝えた。伴奏はカラオケCDを用い、ヘッドセットのマイクを付け、全ての歌詞を覚えて歌ったため、視線をいつも子どもたちに向ける事ができ、長い絵本にもかかわらずみんな最後までしっかりと聞いていた。また、明るい声でゆっくり歌うことを何度も練習してきており、準備に時間をかけた甲斐もありとても良い発表となった。

発表後、グループごとに気付きを話し合い、ふり返りとして、「内容・指導の仕方、子ども達の様子についてのよかった点と改善点」及び感想を各自で実践記録に記入している。

以下、その記録による学生のふり返りのまとめである。

★よかった点

- ・緊張はしたがハキハキと話せた。
- ・子ども達が一生懸命聞いてくれて嬉しかった。
- ・子ども達が興味・関心を持ってくれていて、一緒に遊べて楽しかった。反応や声を実際に聞いてさらに保育に関して知りたいと思うようになった。
- ・臨機応変に対応できた。
- ・ピアノを弾くと一瞬にみんなこちらを向いてくれたのも嬉しかった。
- ・紙芝居を読むときに、文字を見ずにできるだけ子ども達の様子を見ながらやった。するとこちらに興味を持ってくれる子どもが多くなった。
- ・手遊びをするとき一緒にしてくれ、絵本も真剣に聞いてくれた。質問をしたときに反応があったのですごく良かった。
- ・きちんと準備ができていたことが良かった。何回も集まって練習をした甲斐があった。

★改善点

- ・想定していた状況と異なり臨機応変に対応できなかった。
- ・小さい年齢だったので、準備した内容が理解できるものではなかった。
- ・ピアノの前奏を付けるのを忘れて始めてしまった。

- ・輪に入れない子どもに、もっと声をかければ良かった。
- ・私達と子ども達の距離が遠かった気がするので、次は自分から積極的に近づいて対話したい。
- ・挨拶やお話をするとき、視線を下にして話してしまったので、全体を見ながら話すようにしたい。
- ・どのように歩み寄っていくか、など子ども達への接し方を上手になりたい。
- ・アドリブでもっと動けるようになりたい。その場の子ども達の反応に対して、どのように動くのか、接するのか、瞬時に対応できるようにしたい。
- ・子ども達も一緒に参加して楽しめるように、問いかけを増やしたい。
- ・もう少しゆっくりとお話やセリフを読み、セリフにもっと感情を入れる必要がある。

★感想

- ・実際に子ども達の前に立ち、話をするというよい経験ができてよかった。
- ・最後までやりきれてよかった。
- ・次からは年齢にあった内容をきちんと考えて臨みたい。
- ・今回は自分が楽しむ事を目標にしたが、子ども達に歌うことの楽しさも伝えることができた。
- ・次の実習に活かしていきたい。
- ・保育士になりたいという気持ちが更に強くなった。
- ・すごく良い経験になった。子ども達の反応を近くで見ることができ、ふれあうことができ、人前で発表する抵抗が少し減った。あっという間に時間が過ぎ、楽しいひとときを過ごせた。
- ・広場の先生から、子どもへの接し方や話しかけ方など、多くのことを学んだ。先生方の子ども達への話し方を実際に見ることができた。
- ・広場の先生方の話がとてもためになった。子ども達への接し方や保護者への対応を見て、とても勉強になった。
- ・実際にやってみるということが大切で勉強になると知った。

「音楽の基礎」の授業内容は、幼児教育としての音楽的な表現技術の向上を目指すことを主な目的として、「音楽の基礎Ⅱ」の授業へと引き続き2年間での学修を行っている。幼児教育での音楽的表現方法が多様であることから、その技術を学び身につけていくには大変時間のかかることであり、この2年間は学生自らが多様な表現を考え、その技術を身につけていくための土台となるものを学んでいくことになる。この実践後の記録からは子ども達の反応や学習の成果、実力の発揮等に対する各学生の様々な気付きがあり、それが今後の学習意欲へとつながっていく良い体験となっていることがわかる。また、多くの感想には練習成果を発揮することに多くのエネルギーを使い、周りに気を使う余裕のない実践となったことへの反省があることから、その場に機転を働かせ適切に対応することのできる力が共通の課題となっている。

3. アンケート調査

3.1 調査目的

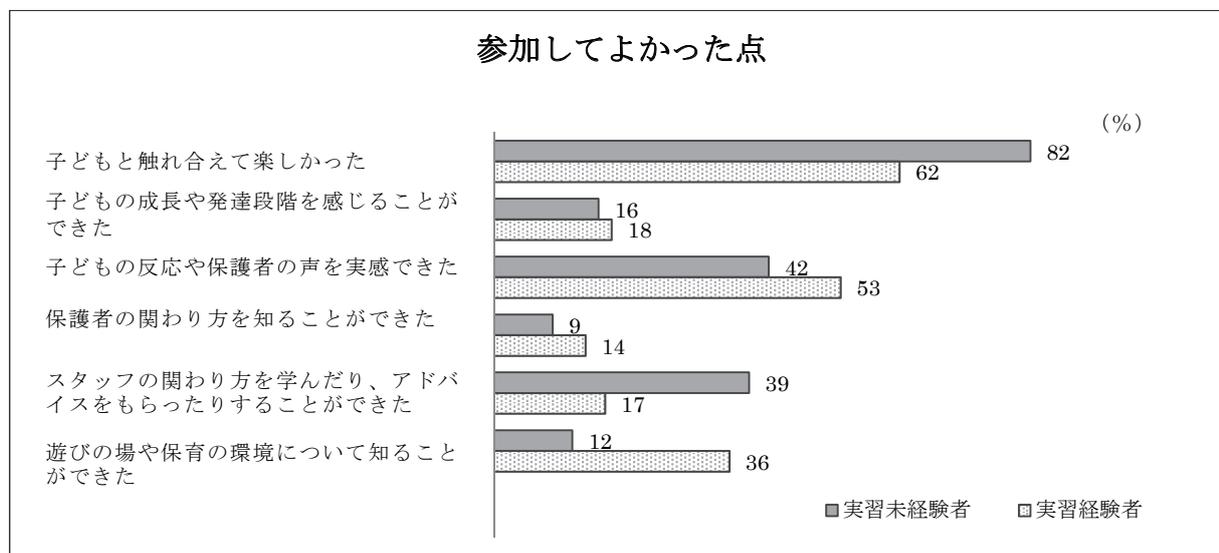
広場での保育体験を振り返り、学生が広場参加の意義をどのように感じているか、保育者として必要と思われる意識についてどのような変化があったかを明らかにし、実践力に繋がる効果を探る。また、実習経験の有無による意識の違いにも注目する。

3.2 調査方法及び内容

調査対象者を授業での参加経験のある学生とし、平成29年1月下旬～2月上旬に実施する。アンケートの設問としては、「どのような視点で参加の意義を感じたか」「参加したことで自身にどのような成果や意識の変化を感じたか」の2項目を挙げ、回答欄には、子ども理解、保育技術、保育環境に関するものについて提示し、それぞれの設問において、特にそのように思う内容について2項目を選択するようにした。更に「これから臨む実習や卒業後の進路に活かされるか」についても回答を求め、感想の自由記述欄も設けた。

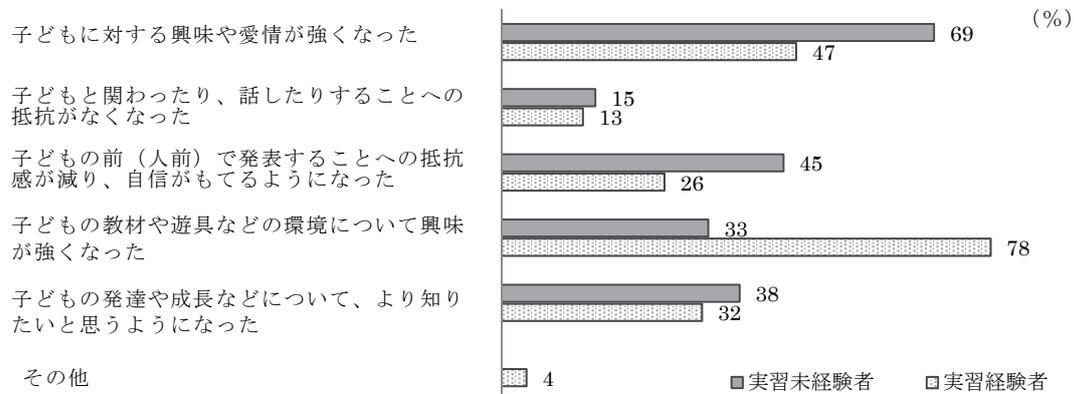
3.3 調査結果

回答者数154名（実習未経験者67名・実習経験者77名）



実習経験の有無にかかわらず、子どもと触れ合う楽しさを実感した学生が最も多い。また、実習未経験者は、乳幼児への接し方について漠然としたイメージしかないことから、個々の子どもに対するスタッフの関わり方やアドバイスの実際から学ぶことが多かったことがわかる。実習経験者は、授業において発達段階を考慮した手作り教材を持参したことから、使って遊ぶ子どもの姿を通して遊具も含む保育環境に注目している。

参加による成果や変化



実習未経験者は子どもへの愛情が増したこと、人前で発表することへの抵抗感の減少という感覚的な変化を感じている。また、子どもの発達についても実際の姿を通して興味が増していることがわかる。実習経験者は、参加の意義についての回答と連動して、保育環境というより専門的な視点で関心が高まっている。このことから、実習への不安感の解消や保育者として必要な専門的知識の習得など、それぞれの授業における参加の目的が成果として明らかになったことが読み取れる。

また、実習未経験者は、「年齢によって遊び方が変わっていくことがわかった。また、同じ年齢でも成長の差があることを実感できた」などの子どもの発達に関わる感想や、「子どもの反応が実際に伝わるので、どの様に興味をもたせようかと考えるようになった」「子どもは思っていたのとは違う動きで、予想通りにはいかないなと思った」などの保育技術に関する感想を述べ、子どもへの接し方や声のかけ方を広場スタッフから具体的に聞いたことが自己の学びになったことも書いている。実習経験者は、「広場には子どもが過ごしやすい雰囲気や年齢に応じた遊具などがあり、子どもが安心して遊ぶことができるように工夫されていることが改めて分かった」「自分なりに発達を考えて玩具を作ったが、子どもの反応が予想外で、自分なりの課題が見つかった。次に活かしたい」など保育環境の重要性を述べている。さらに実習では経験することができなかった保護者との育児についての会話も価値あると捉えていることから、学生の保育に対する考えを深める経験になったと考える。

一方、授業担当教員及び広場スタッフからの意見聴取では、「発表だけでなく、子どもや保護者と触れ合う時間をもつことで学生の表情や対応は違ってきて、積極的にコミュニケーションが取れるようになってきている」「学生は、子どもの反応を見て一喜一憂するが、自分なりの課題がすぐに見いだせたり、次への意欲に繋がったりしている。また、子どもに触れて遊んだり保護者から話を聞いたりすることで、実態理解につながり、指導案や教材制作に対してもイメージがもちやすくなった」「机上で計画していても、当日の利用者年齢、人数も不明なので、その場に応じた対応力が必要となる。授業外に広場に來て様子を見るなど事前準備をしている学生はスムーズな対応ができる」「回数を重ねることで、子どもへの対応や発表の内容などにおいて質の向上が見られる。回数と経験が学生の実践力を高めている」等、座学による計画や予想と実際の体験が連動して学生の学びとなっていることがわかる。

参考文献

- 1) 青山雅哉・小川純子・島田稲子（2016）学生の「つどいの広場」におけるその活動と実施調査の報告．奈良学園大学奈良文化女子短期大学部発行．